

記 憶

2011年3月11日 14時46分

伝えなければならないこと

この日この時刻、宮城県沖を震源とする M9.0 最大震度7の地震が起こり、津波が東北・関東地方の太平洋沿岸を襲いました。東日本一帯が受けた被害は、死者・行方不明者が2万人にのぼり、家屋の全半壊も37万戸にも及ぶ未曾有の大災害になりました。この地域は震度6強烈震に揺れ、押し寄せた津波は、海岸から4kmも離れた本校に達し、さらに奥へと進んでいきました。本校は危うく難を逃れ、奇跡的に被害はほとんどありませんでした。しかし、当日家庭に在った生徒9名とその春の入学予定者2名が犠牲となりました。

その日より本校は、避難所として、また検視所・死体仮安置所として、地域の拠点としての学校の責任を果たしました。中でも避難所は、本校職員のみでの自主運営とならざるを得ず、全職員の協力により44日間にも及ぶ難局を乗り切りました。

この災害は東日本大震災と命名され、千年に一度の災害と言われています。しかし、時は移り、人は代わっていきます。衝撃的であった震災の記憶も、いつか風化する定めにあります。やがて震災への記憶が途絶え、災害に無防備になることが危ぶまれます。

この碑は、東日本大震災の甚大な被害を永く記憶し、次の世代に伝えることを目的として建立されるものです。そして志半ばに生命を絶たれた生徒の魂を慰め、本校職員がどのように震災に立ち向かったかを残すものであります。

犠牲者名 佐藤 元紀（1年） 熊谷 汐織（2年） 武山 謙司（2年）
土井 正樹（2年） 平塚 葵（2年） 相澤 充宏（3年）
今野 麻里（3年） 佐々木 光里（3年） 武山 理生（3年）
及川 千裕（青葉中3年） 武田 恵（青葉中3年）

平成24年3月11日

碑文 奥山 恒義（宮城県石巻西高等学校長）